

授業科目 解剖学実習Ⅱ

【担当教員名】 西野幾子、山口康昭、山田まりえ	対象学年	1	対象学科	理学・作業
	開講時期	後期	必修・選択	必修
	単位数	1	時間数	30

【<概要>又は<一般目標：G I O>】

人体模型標本、関節機能模型、人体骨格標本などを用いて、人体、特に筋系、関節・靭帯系を理解する。  
人体組織、特に骨、軟骨、筋の微細構造を光学顕微鏡的に観察し、それらを理解する。

【<学習目標>又は<行動目標：S B O>】

1. 主な関節を構成する骨、それらに付随する靭帯を観察・スケッチし、それらの名称、簡単な機能を説明できる。
2. 上肢・下肢の筋を観察・スケッチし、それらの名称と機能を説明できる。
3. 体幹の筋を観察・スケッチし、それらの名称を説明できる。
4. 骨・軟骨・筋・神経組織の構造を光学顕微鏡的に概説できる。
5. 系統解剖を見学し、人体の構造を3次元的に理解し、個々の身体の違いを実感する。

回数	授業計画又は学習の主題	SBO	
		番号	学習方法・学習課題又は備考・担当教員
1	解剖学実習Ⅱの概要とオリエンテーション		実習
2	関節学実習 各関節の関節模型・関節機能模型の観察とスケッチ	1	"
3			
4	筋学実習 上肢・下肢の筋の観察とスケッチ	2	"
~9	体幹の筋の観察とスケッチ	3	"
10	組織学実習 顕微鏡を用いた骨・軟骨、筋、神経組織標本の観察とスケッチ	4	"
~12			
13	人体解剖見学実習 新潟大学医学部	5	"
14			

【使用図書】	<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格・その他>
教科書 (必ず購入する書籍)	ヴォルフ・ハイデッガー人体解剖カラーアトラスI	系統解剖学	体壁・上肢・下肢	
		訳・坂井建雄	メディカル・サイエンス・インターナショナル	8000円
参考書				
その他の資料	実習書の配布			
【評価方法】 実習態度、出席状況、スケッチブック、 筆記試験の総合評価	【履修上の留意点】 実習室では白衣を着用すること。標本の数により全員が同じ順序で実習することは不可能 なので、説明をよく聞くこと。スケッチブック（指定）と色鉛筆が必要。 実習はやり直しができないので、欠席をしないこと。			